

平成28年度 放課後子ども教室一覧

5市23教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	委託	委託団体名
栗東市	7	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	○	栗東市地域教育協議会
		はるたっこ広場	治田小学校 コミュニティセンター治田		
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 コミュニティセンター治田東		
		治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西		
		大宝わくわくタイム	大宝小学校		
		さんさん・キッズ	大宝東小学校		
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 コミュニティセンター大宝西		
甲賀市	1	岩上公民館子ども教室	岩上公民館		
野洲市	7	野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		
		祇王子どもクラブ	コミュニティセンターぎおう		
		篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら		
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		
		中主地域子ども教室(中里学区)	コミュニティセンターなかさと		
		野洲市地域子ども教室(兵主学区)	コミュニティセンターひょうず		
湖南市	4	石部中 中3夜の勉強会	青少年の家		
		甲西中道草教室	甲西中学校		
		甲北中基礎学力補充教室	甲西北中学校		
		日枝中夜の学習会	サンヒルズ甲西		
米原市	4	放課後キッズin 310	山東公民館 市民体育館	○	NPO法人 カモンスポーツクラブ
		放課後キッズinジョイ	伊吹薬草の里文化センター 伊吹山麓青少年総合体育館など	○	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団
		放課後キッズinおうみ	近江地域内の里山・農園・公民館	○	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会
		放課後キッズinまいはら	旧息郷小学校など	○	NPO法人 MOSスポーツクラブ
計	23				

栗東市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

地域の教育力を向上させ、地域で子どもを育てる環境の形成および、子どもたちに様々な体験活動を通じて、地域とのつながりを深め、健全な青少年の育成をめざす。

■ 本年度の活動

7学区にて放課後の見守りや体験活動、軽スポーツ、学習を行う。その他にも七夕やクリスマスといった季節に応じたイベントや、お誕生会など子どもたちが楽しんで参加できるイベントを企画している。

■ 本年度の成果

週に1回程度、放課後の時間に安全な交流の場として、多くの体験活動を実施できた。

■ 今後の課題

スタッフの確保が大きな課題となっている。9小学校区のうち、2小学校区がスタッフ不足のため開催できていない。開催できている学区でも、スタッフの高齢化が問題になっており、若い世代のスタッフ確保に力を入れている。しかし、若い世代の方は、仕事をしておられる方が多く、週1回の活動でも負担に感じ、なかなかスタッフが集まらない。参加者の保護者を中心に声かけを行ない、保護者スタッフとして協力していただき、参加者が放課後子ども教室を卒業した後もスタッフとして残ってもらえるようにしていきたい。



【 宿題の補助 】



【 受付の様子 】

■ 活動を通してみんなとふれあう「葉山東ふれあい子ども広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	葉山東ふれあい子ども広場
年間開催日数	28日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	40人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館とコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、将棋などを行う。

■ 特徴的な活動内容

申込み段階で、「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」にわけて申し込んでもらい、参加者は申し込んだグループで1年間活動する。途中でグループを変更したい参加者は、変更希望のグループに空きがあれば可能。長期休暇前に3グループ合同のお楽しみ会を行ない、各グループが集まって交流できる場をつくっている。

■ 実施に当たっての工夫

普段は3グループに分かれて活動しているため、別グループとの交流がないが、お楽しみ会を実施することにより、別グループの参加者とも交流をはかることができる。コミュニティセンターの事業とも連携して、クラフトで作った作品を展示し、地域のたくさんの方に、作品を見てもらうことが出来る。

■ 事業の成果

地域のコミュニティセンターが積極的に参画してくださるため、地域全体で子どもを見守ろうという取り組みになっている。3グループに分けて申込みを行っているため、参加者の好きな活動を1年通して行え、参加率が高い状態で活動している。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保、高齢化が課題となっている。スタッフの高齢化が進み、若い世代のスタッフが少ないため、現在中心となって活動してくださっているスタッフの方が抜けると、活動が困難となる。そうならないためにも、若い世代のスタッフの確保が必要になっている。



【 活動前の宿題 】



【 将棋活動の様子 】

■ いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	はるたっこ広場
年間開催日数	29日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	44人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、絵本の読み聞かせ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

1年生～4年生までが参加しており、学年によって下校時間が違うため、授業が早く終わった学年は、コミュニティセンターにて宿題や、市内ボランティアサークルによる絵本の読み聞かせで高学年の授業が終わるのを待つ。高学年の授業終了後、体育館に移動し、館内で自由遊びを行う。

■ 実施に当たっての工夫

体育館での自由遊びを基本とし、スタッフは参加者と一緒に遊んだり、活動の見守りを行っている。低学年と高学年の授業終了時間が違うため、低学年が待機している時間を有効に使えるように、宿題や読み聞かせを行っている。

クリスマスには、別途参加費を徴収して、お楽しみ会を開催している。お楽しみ会では、コミュニティセンターの調理室を借りて、お菓子作りを行っている。

■ 事業の成果

昨年度より参加人数が減少したので、コミュニティセンターや体育館を広く使うことが出来ている。活動終わりの体育館掃除も、普段の掃除では使わない道具を使うため、参加者が積極的に掃除をするようになった。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保、高齢化が課題となっている。昨年度よりも参加者が減少したため、スタッフ1人当たりの参加者の人数は減少し、負担が多少減ったが、若い世代のスタッフが少ないため、苦しい状況が続いている。まずは、保護者スタッフを確保し、そのままスタッフとなってもらえるように努力したい。



【 コミセンで待機中 】



【 絵本の読み聞かせ 】

■ 新しい体験にどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

■ 栗東市	
■ 活動名	
チャレンジはるひがっこ	
年間開催日数	32日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	37人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

季節のイベントを積極的に取り入れ、七夕やクリスマスなどのイベントを行っている。英語遊びも行っていて、英語で絵本の読み聞かせや、身近な植物の英語名の紹介などを行っている。

■ 実施に当たっての工夫

普段の活動では、自由遊びを基本としており、参加者がそれぞれ好きな事をして過ごしている。スタッフは参加者の見守りや、大縄跳びの縄回しなどの遊びの補助を行っている。夏休みにお楽しみ会を実施し、参加者の保護者や兄弟にも参加を呼びかけ、家族同士の交流の場としても活用している。

■ 事業の成果

普段の活動に英語遊びを取り入れているため、参加者が英語に触れる機会を作ることができている。英語での絵本の読み聞かせは、低学年の参加者にも好評で、どの参加者も楽しみながら聞いている。また、参加者を縦割りにグループ分けすることにより、上級生は下級生の面倒を見て、下級生は上級生の指示を聞くことによって、自立性や協調性を身につけることができている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保と高齢化が課題となっている。活動に必要な道具をコミュニティセンターから、活動場所である小学校体育館に運ぶ作業も、高齢のスタッフが多いため苦勞されている。若い年代のスタッフを確保するために、保護者スタッフの募集を今後も続けていきたい。



【 英語で絵本の読みかせ 】



【 夏休みのお楽しみ会 】

■ 放課後の時間をのびのび過ごす「治西のびのび広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	治西のびのび広場
年間開催日数	27日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	31人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、コミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、体験学習などを行う。

■ 特徴的な活動内容

地域の清掃活動への参加や、地域のスポーツクラブの活動に参加させてもらい、地域の方との交流を深めている。また、地域のまつりにもステージ発表という形で参加し、地域全体での見守りに繋がっている。

人権学習の一環として、滋賀朝鮮初級学校にて開催された「ウリハッキョマダン」にも参加し、事前事後学習も合わせて、人権についてのことを楽しく学ぶことが出来た。

■ 実施に当たっての工夫

環境学習の一環で、小学校の畑の一角にジャガイモを育てており、平和学習の一環として、戦時中の食事体験での活用や、クリスマスの楽しみ会でカレー作りに活用している。

帰宅時には、スタッフが参加者と一緒に帰ることによって、保護者のお迎えがなくても活動に参加できるような工夫がされている。

■ 事業の成果

今年度は活動内容や、参加者の受け入れ人数の見直しを行いきちんと定員を設けることにより、昨年度よりも参加者数が少なくなり、スタッフも余裕を持って見守り活動が出来るようになった。参加者と接する時間も増え、地域住民とのコミュニケーションも促進されている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保と高齢化が課題となっている。他の学区と違い、参加者が帰宅する際に、自治会ごとにスタッフが子どもと一緒に帰宅しているが、スタッフが足りないと一緒に帰宅することができなくなる。スタッフの人数が減ると、この帰宅方法を見直す必要あり、そうすると参加者の減少につながり、保護者スタッフの確保も難しくなることから、スタッフの人数を確保して、現在の方法を継続していきたい。



【 平和学習 】



【 地域の祭りでの発表会 】

■ いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

■ 栗東市	
■ 活動名	
大宝わくわくタイム	
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	41人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

活動内容をスタッフ会議で事前に決定し、毎回違う活動を行っている。活動は個人で行うものからチームで行うものまで様々あり、毎回違う内容に、参加者は楽しそうに活動している。毎回活動の最後にドッジボールを行っており、体力差などに考慮した対戦を行い、参加者が楽しめるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

年度の最初の活動に、避難訓練を取り入れている。災害が起こった時の避難ルートの確認を行うことにより、参加者への安全対策にも気をつけている。

参加者が飽きないように、毎回違う遊びをスタッフが考えている。昨年度からの参加者の中には、昨年度のことを覚えていて、活動に消極的な参加者もいるが、活動が始まると、他の参加者と一緒に楽しそうに活動している。

■ 事業の成果

団体競技を多く取り入れているので、チーム内で協力することにより、協調性やリーダーシップの成長が見られる。活動が毎回異なるので、参加者は様々な活動を体験することができ、体験をきっかけに色々なことに興味を持つ参加者が見受けられる。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が困難になっている。参加者の保護者や、地元の民生児童委員などにも声をかけているが、なかなか集まらず、今後も継続した声掛けを行いたい。



【 活動場所に集合 】



【 グラスゴルフ 】

■ 明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

■ 栗東市	
■ 活動名	
さんさん・キッズ	
年間開催日数	25日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	45人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

宿題、ラジオ体操、自由遊びを活動の基本としている。自由遊びでは、ボール遊びやなわとびなどの軽スポーツや、スタッフが自宅から持参したサランラップやトイレトペーパーの芯を使って工作、お絵かきなどの創作活動などを行っている。

■ 実施に当たっての工夫

基本は参加者の自主性に任せた自由遊びにしているが、昨年度実施したしゃぼん玉と巨大カルタが好評だったため、年に数回はこのようなイベントを行うことにした。

■ 事業の成果

参加者が積極的にスタッフに声をかけ、一緒に遊ぶことが多く、参加者とスタッフのコミュニケーションがとれている。学校以外の場所で出会っても、参加者のほうからあいさつをしてくれており、良好な関係が築かれている。

■ 事業実施上の課題

新規スタッフの確保が課題となっている。参加者の保護者等に声をかけ、新規スタッフの募集を行っている。今年度は若干名のスタッフを確保することができた。今後も引き続きスタッフ確保に向けた取り組みを続けていきたい。



【 自由遊び 】



【 開講式 】

■ 地域の方とのふれあい大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

■ 栗東市		コーディネーター数	1人（全教室兼務）
■ 活動名		子どもの平均参加人数	34人
大宝西ふれあい子ども広場		開始年度	平成19年度
年間開催日数	28日		

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

受付後に宿題の時間を確保し、宿題を済ませた後、ボール遊びやなわとび、紙飛行機、オセロなどの自由遊びを実施している。28年度は年度初めの活動で、交通安全教室、防犯教室を実施して、参加者に日常生活での注意を促した。毎年9月には平和学習も実施しており、戦争のことがわかるDVDを鑑賞後、当時の食生活を再現したものを食べ、戦時中の大変さを学んだ。

■ 実施に当たっての工夫

体育館だけでなく、コミュニティセンターも活用することで、様々な活動を実施できている。軽スポーツでは体育館を活用し、クリスマスなどのお楽しみ会では、コミュニティセンターを活用している。毎月月末には、誕生会を実施し、その月が誕生日だった参加者に、全員で歌を歌い、プレゼントをあげている。

■ 事業の成果

自由遊びを基本としているため、参加者は各自好きな遊びを楽しんでいる。年に数回グループ遊びも行っており、グループ毎に競うことにより、グループ内での連帯感を高めている。グループはたて割りで構成されているため、異学年交流も活発に行われている。

■ 事業実施上の課題

他学区と比べ、スタッフの人数は多いため、見守り活動に少し余裕がある。しかし、いつもスタッフ全員が参加できるわけではないので、今後もスタッフ募集を続け、スタッフを確保し、安全に活動を実施できるようにしていきたい。



【 防犯教室 】



【 DVD鑑賞 】

■ 甲賀市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

放課後の安全・安心な子どもたちの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

さらなる地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■ 本年度の活動

水口小学校区内の岩上地域（公民館）において、本年度、試験的に放課後子ども教室を実施。工作やクッキングなどの様々な体験活動を通して、放課後の居場所作り・仲間作りを行った。

■ 本年度の成果

初年度ということで、参加者が集まるか心配したが、たくさん子どもたちが参加してくれ、楽しく協力しあって活動できた。

■ 今後の課題

現在は行政主導で開催しているが、今後は地域の方々の参画を得て実施していきたいと考えている。



【活動前の注意事項を説明】



【活動後アンケートを実施】

■ 甲賀市放課後子ども教室（岩上公民館）

■ 甲賀市	
■ 活動名	岩上公民館子ども教室
年間開催日数	6日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	20人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

放課後や夏休み等に公民館や体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちに工作やクッキングなどの様々な体験活動を実施。

- 第1回 7/7 押し花でしおり作り
- 第2回 7/29 夏休み体験講座「スライムづくり」
- 第3回 8/24 夏休み体験講座「プラバンづくり」
- 第4回 11/8 お菓子づくり「かぼちゃのカップケーキ」
- 第5回 12/27 冬休み体験講座「書き初めを練習しよう」
- 第6回 2/4 紙芝居を見よう（予定）

■ 特徴的な活動内容

地域の方を講師に迎え、体験活動を中心に実施。夏休み等には宿題をする時間も設け、見守りを実施。

■ 実施に当たっての工夫

毎回違う活動を企画し、子どもたちが飽きずに楽しめるよう実施している。

■ 事業の成果

グループに分けて活動することによって、学年が上の子が下の子の面倒を見たり、みんなで空き時間に一緒に遊んだり、仲間づくりができた。

■ 事業実施上の課題

活動内容の検討も含めて、地域の方々に関わってもらえるような働きかけが必要と考える。



【押し花でしおり作り】



【かぼちゃのカップケーキ作り】

野洲市における地域子ども教室の取組

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	平成 28 年 5 月 27 日	14 名	(1) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 29 年 3 月 10 日	17 名	(1) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 29 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

■本年度の成果

- ・異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。
- ・地域の方々が、子ども教室の講師やボランティアとして関わってくださることで、地域での交流を深めることができた。

■今後の課題

- ・指導者が高齢化してきており、後継者も育っていないため、指導者を探すことが困難な地域があるので、サポートしてくださる方を探して、支援や協力を求めている。
- ・高学年になると、スポーツ少年団や塾に通いだす子ども達が多くなり、参加者の確保が難しい。
- ・開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。

野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	野洲学区わくわく子どもクラブ
年間開催日数	74日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	14.3人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から4年生・6年生20名参加8回開催
- ②わくわく絵手紙は、小学生1年生・3年生から6年生9名参加8回開催
- ③わくわく親子クッキングは、小学生1年生とその保護者8組16名参加6回開催
- ④わくわく日本舞踊は、小学生1年生から5年生7名参加8回開催
- ⑤わくわく茶道①は、小学生1年生～2年生・5年生14名参加8回開催
- ⑥わくわく茶道②は、小学生3年生から4年生・6年生15名参加8回開催
- ⑦わくわく将棋①は、小学生1年生から3年生15名参加7回開催
- ⑧わくわく将棋②は、小学生4年生～6年生10名参加7回開催

■ 特徴的な活動内容

・子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。

- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！をテーマ
- ②絵を描くには、ものの形をしっかりと見なくてはね。自然観察もだいじですね。
絵手紙をとどけようかな！
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識
料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運び方のけいこ！
美しい体の動かし方が、身についたら最高ですね！
- ⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになろう！
自分専用のストライカづくりの楽しみもある
- ⑥おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを！日本の四季を感じて！
和菓子作りの体験
- ⑦お友達と一緒に将棋を楽しみ、マスターしよう！

■ 実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図る。
安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

■ 事業の成果

同年代のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年代との交流ができた

■ 事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題

■ その他



【わくわく親子クッキング】



【わくわく将棋①】

野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	三上楽しいクラブ活動
年間開催日数	50日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成14年度

活動の概要

【三上楽しいクラブ活動】

- ◆「生け花」・・・月1回 年9回（第1土曜日 9:00～10:00）
- ◆「茶道」・・・月1回 年11回（第4土曜日 10:00～12:00）
- ◆「クッキング」・・・月1回 年10回（第3土曜日 9:30～12:30）
- ◆「将棋」・・・月2回 年20回（第2・4土曜日 9:00～11:00）

特徴的な活動内容

平成14年から「学校5日制」が始まる前年より準備をして現在も継続して毎年開催している。
土曜日・日曜日（上記以外に7クラブあります）に年間単位で、毎年クラブ活動の募集をしています。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど自主的に開催日と時間が重ならない様にして、複数のクラブに参加している。

実施に当たっての工夫

- ・クラブ数が多く地域行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしています。年2回（5月・10月）配布
- ・コミセンみかみの「悠紀まつり」にて発表（茶道）・展示（生け花）ができるようにプログラムを組んでいただいている。
- ・年度末、他館のクラブとの交流戦を続けている。（将棋）
- ・「クッキング」は、サポーター4名のご指導のもと、縦割り班として異学年の班で行っている。

事業の成果

コミセンみかみの「悠紀まつり」では、「生け花」・「茶道」の展示・発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られ、成果として地域のみなさんに喜んでいただいた。「将棋」では、毎年他館のクラブとの交流戦が1年間の目標である。
「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られサポーターさん・保護者間同士の交流が活動を通じて感じられた。

事業実施上の課題

- ・サポーターさんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法など。
- ・スポーツ少年団等の参加で4～6年生の加入が少ない。
- ・開催日・時間等が重ならない様にしていますが、サポーターさんの都合等の変更で難しい。
- ・居場所づくりになるような活動内容の種類・展開が必要かと思う。

その他



【クッキング サポーターが見守っています】



【生け花クラブ サポーターが見守っています】

野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	祇王子どもクラブ
年間開催日数	54日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成17年度

活動の概要

- ・よさこい妓王は、おどりとおとして、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
- ・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で男女を問わず料理ができる力や、主食、副食をバランスよく食べる事ができるように。また「食べ物を選ぶ力」「食べる量」等食育を考え健康な体作りを目的に実施。早寝、早起き、朝ご飯の大切さも指導。

特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。

実施に当たっての工夫

- ・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。
- ・初めての参加者には、基礎から丁寧に指導し、料理の楽しさを感じてもらえるようにしている。

事業の成果

- ・ひとり一人に声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
- また、参加の子ども同士や親同士も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。
- ・この教室で学んだ料理を家で作ったり、料理を手伝えるようになってきた子どもも何人かいる。

事業実施上の課題

- ・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。(よさこい妓王)
- ・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。土、日曜日は、スポーツ少年団や塾等の習いごとで忙しくしている子どもが多く、小学校低学年の子どもの参加が多い。

その他



【 クッキング教室 】



【 よさこい妓王 】

野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	篠原地域子ども教室
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	15 人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

さつまいも教室、子ども料理教室、科学実験など。子ども達が興味を持ち、いろんなことに体験させる。

■ 特徴的な活動内容

演奏練習は、毎週1～2回の練習、依頼があれば地域へ出前演奏。さつまいも教室は、畑づくりから草引き・収穫・料理までを一貫して体験する。料理教室は、旬のものを使い楽しく作って美味しくいただくまでを体験。科学実験は、磁石の不思議、ポンポン船作り、水ロケットを飛ばすなど子どもたちに興味を示すことにチャレンジしました。

■ 実施に当たっての工夫

すべての教室に対し、地域の方々の協力を頂いています。

■ 事業の成果

どの教室も人気がよく、楽しい教室となっています。特に料理教室では、次のレシピを希望したり、今度も参加したいとの声があったりで指導者はとてもやりがいを感じています。

■ 事業実施上の課題

指導者が限られてくる。マンネリ化。好きなことには集中できるが、興味がない事には集中力、根気力にかけることがある。難しさが原因かもしれません。

■ その他

今後どこかに新鮮味のある教室を続けていきたい。



【科学クラブ教室】



【しのっ子ジュニアオーケストラ・学区運動会】

■ 野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	北野っ子フレンドリークラブ
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	31人
開始年度	平成6年度

■ 活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した。教育活動推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成28年度実施の科目と回数は次のとおりである。

囲碁：2回、将棋：3回、料理：4回、お菓子作り：2回、工作：1回、パソコン：4回

■ 特徴的な活動内容

参加者は固定ではなく、各事業実施日毎の自由参加（但し、要予約）としている。

■ 実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮している。

■ 事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもち、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。

■ 事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。

■ その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考えます。



【 9月17日 パソコン教室 】



【 10月22日 料理教室 】

■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

■ 野洲市	
■ 活動名	中主地域子ども教室（中里学区）
年間開催日数	20日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	10人
開始年度	平成18年度）

■ 活動の概要

茶道クラブ：月1回、裏千家の作法を学ぶ

手芸クラブ：月1回、糸の止め方など初歩から学び、刺しゅう等を体験

■ 特徴的な活動内容

特になし

■ 実施に当たっての工夫

茶道クラブ：子ども達に12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるよう工夫している。

手芸クラブ：子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 事業の成果

クラブ活動を通じて、在籍年数が長い子どもが、まだ初めて日の浅い子どもに教えてあげるなど、学年をこえたふれあいなどが生まれつつあり、技能習得以外にも大事な体験をしていると感じることがある。

■ 事業実施上の課題

子ども達の習熟度にばらつきがあるので、教えるのが難しい事と集中力を持続させる事。

■ その他



【 手芸クラブ 】



【 茶道クラブ 】

■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

■ 野洲市	
■ 活動名	
野洲市地域子ども教室（兵主学区）	
年間開催日数	35日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	16人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に教室を開催。

地域子ども教室は、華道クラブ・茶道クラブ・おやつ作り教室・陶芸教室・けん玉教室・ビーズアクセサリー教室・クッキング教室などを開催している。

■ 特徴的な活動内容

- ・「春を食べようの会」では毎年4月に野山に出かけ、散策しながら指導者のもと食べられる野草を採取し、館に持ち帰った後、野草を天ぷらや味噌汁などに調理して春を味わっている。
- ・「あやめキッズクラブ」では年間8回、約40名の同じメンバーで毎回違う内容の体験をする教室を開催しているが、兄弟姉妹で参加される方が多く1年生から6年間参加している子どもも多くいる。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちが楽しく安全に遊べるように配慮している。

■ 事業の成果

異学年の子どもたちが遊ぶことで、互いを思いやり助け合う精神が生まれ、年度の終わりには子どもたちの成長がみられる。学校でも家庭でもない環境で、子どもたちはのびのびと活動しているように思う。

■ 事業実施上の課題

スタッフが限られているため、館外に出かける事業は今年度はなくした。

■ その他



【紙ひこうき教室】



【けん玉教室】

■ 湖南省における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

湖南省の放課後子ども教室事業においては、これまでの取組をベースにしながら、中学校の生徒の進路を実現させるための「学力補充」「進路保障」の取組を行っている。放課後や夜間に学校や地域の施設等で、地域の大人、退職教職員、先輩の高校生や大学生の方々が関わり、学力的に支援が必要な生徒に寄り添ってサポートいただき、一緒に学ぶ仲間とともに学ぶ意欲を高めながら「学力の底上げ」を図っている。

■ 本年度の活動

実 施 校	開催日数	活動場所	主な内容
石部中学校	25日	校区内「青少年の家」	進路実現の学力補充 （「中3夜の勉強会」）
甲西中学校	夏5日 30日	学校図書室 学校図書室	中1中2年生基礎学力補充 中3年生進路実現の学力補 充（甲西中道草教室）
甲西北中学校	25日	学校または 岩根会館 菩提寺まちづくりセンター	中1～3年生基礎学力補充
日枝中学校	15日	市民学習交流センター	中3年生個別進路実現の 学力補充（「夜の学習会」）

■ 本年度の成果

- ・モデル事業「放課後子ども教室事業」としての開始は昨年度からであるが、このモデル事業を受けていない昨年、2年前、古くは17年前から自主的に行ってきた経緯がある。
- ・生徒が週1回～週3回決まった時間に学校図書室、集まりやすい校区の公共施設や、ボランティア組織の施設で継続的に学習を行うことで、生徒自身の学習に対する習慣づくりにつながっている。生徒にとっては、年齢が近く親しみやすい地域の高校生や大学生に、あるいは地元で支援してくださる方、地元退職教職員の大人の方に、参加生徒の苦手な学習を一つでも減らせるよう、一人一人に寄り添ったサポートを受けている。そのため、生徒自らが学習への意欲を高め、前向きな気持ちで取り組める場面も増えてきている。

■ 今後の課題

- ・サポートをいただく地域の方と、参加する中学生の時間を合わせていくことが難しい。この取組の魅力や成果を伝え、声かけを進めていき、サポートいただく地域の方々、高校生や大学生を確保していく必要がある。



【先輩高校生によるサポート】



【小グループ学習での教え合い】

■ 長期的視野に立ち、生徒の生き方を支援していくために（石部中学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	石部中放課後子ども教室「中3夜の勉強会」
年間開催日数	25日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3人
開始年度	平成11年度

■ 活動の概要

石部中学校においては、3年生の抽出生徒を対象とする学力保障の学習会を地域の協力を得ながら長く続けている。現在の形になった平成11年度を「開始年度」としているが、隣保館や児童生徒支援加配教員が対象地区生徒に学力をつけることを願って実施する自主活動学級にならい、いわゆる「荒れ」にある生徒を対象とした「第2自主活」からすれば、30年以上の歴史がある。

自分の思いをうまく伝えられず人間関係づくりに難がある、自尊心が低く粗野な言動を繰り返す、自暴自棄になる、授業についていけない、家庭環境に恵まれないなどの様々な要因により、授業エスケープや問題行動に走る生徒。しかし、思いをじっくり聞き出せば、社会に出るうえで身につけておくべき学力をしっかりとつけ、高校への進学を果たしたいと思っている者は少なくない。そうした生徒を選び出し、特に地域の「青少年指導支援の会」（趣旨に賛同して集まったボランティア組織。以下「支援の会」と記す）が大きくかかわってくださるようになったのが平成11年度であった。「支援の会」には、高校進学をゴールとするのではなく、地域に住まう若者と長くかかわりあっていこうとするスタンスがあり、勉強会を通じて、言わば生徒の生き方そのものを支援していこうという思いを持ってくださっている。

途中、紆余曲折がありつつも途切れることはなく、毎年10月から卒業時までの半年間、学校（主として児童生徒支援加配教員と3年部所属の教員）と支援の会との協働で、生徒の「荒れ」を食い止めつつ希望の進路を実現する勉強会を実施している。

「勉強」は1対1を基本とし、時に地元大学生などもかかわってくれている。

■ 特徴的な活動内容

学習の場は「青少年の家」という、支援の会が活動拠点としている建物で、生徒は毎週1回（今年度は水曜日）、午後6時過ぎに集まり8時まで学習する。暗くなってからの勉強会なので、安全に配慮し、送迎も行う。教科等の指導は中学校の教員や退職教員の有志、大学生などが担当するが、送迎を受け持ってくださいなのが支援の会の女性メンバーである。交替で生徒を迎え、学習を見守って見送るというあたたかな雰囲気づくりは、この勉強会に欠かすことはできない。

■ 実施に当たっての工夫

対象とする生徒を3年部が抽出し、生徒本人や保護者の意向と決意を確認する。支援の会メンバーにはそのことを伝えて協力をお願いしている。毎回の学習スケジュールは40分間の教科学習、10分の休憩、再び40分間の教科学習という流れを基本とする。ともに、生徒と大人とのコミュニケーションを大切に、生徒にとって居心地のよい空間となるよう心がけている。

大学生の参加については、教育実習生や卒業生などに「自分自身も成長するよい機会」と声をかけている。

■ 事業の成果

毎年人数こそ少ない（絞り込むことで1対1の勉強が可能となる）ものの、アットホームな場で素の生徒を見ることができる。そして、ふだんはなかなか表さない生徒の良さを知ることできる。支援の会の願いどおり、学力をつけるだけでなく、生徒の自尊心が高まっていく様子を実感することができる。

中学校時代に地域の人とのかかわりをつくっておくと、それ以降の自立をめざす際にも具体的な支援に結びつけていくことが期待できる。

■ 事業実施上の課題

最も大きなハードルは、学校と支援の会との間でねらいをしっかりと共有おくことである。長く続けてこられたのは情性ではなく、その年の一人ひとりの生徒への寄り添い方を検討し、ともに歩調を合わせて実践してきたからである。

これからも継続的に取り組んでいくために大切にしたいポイントである。

■ その他

昨年度から「放課後子ども教室」の活動として申請することになり、改めてコーディネーターを配置した。その役割をお願いしたのは支援の会の2名の女性である。コーディネーターには勉強会の当番（送迎係を含む）を決めること、必要な物品を購入すること、記録を残すことなどを委ね、中核となって活動してもらっている。

また、生徒にかかわる大人の関係づくりにも心を砕いてもらっている。会のメンバーで懇話の機会を持つこともあるが、その企画をすることも大切な役割の一つである。



【勉強会の場「青少年の家」】



【1対1で勉強を進める】

■ 進路保障に向けて ～学校が家庭学習の場に！先生は高校生と地域ボランティア～（甲西中学校）

■ 湖南市			コーディネーター数	2 人
■ 活動名				
放課後子ども教室（甲西中道草教室）			子どもの平均参加人数	14 人
年間開催日数	35日		開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本校生徒の家庭学習の時間は極端に少ないという状況がある。その理由は家庭環境が整っていない家庭が多いことに起因している。そこで、学校で自由に学習できる場所を整えることで、長期休業中や放課後の時間に学習できる場を提供できないかと考えた。また、一人では学習できない生徒や分からないと投げ出してしまいう生徒が多いことから、気軽に聞いて教えてくれる人を確保することが必要である。

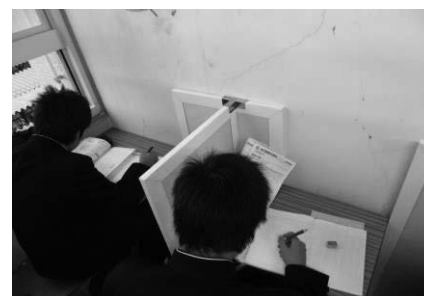
そこで、長期休業中は、1・2年生の学力補充のため、部活動の練習前（午前教室）と練習後（午後教室）に学習教室を設定し、開設日にどちらかで参加できるようにした。場所は、図書室の環境整備を整え、地域ボランティア（大学生等）がその生徒たちの指導にあたってもらう。10月からは、3年生の進路保障のため、週2日程度のペースで、放課後に図書室で放課後の学習教室を開設。近隣の県立甲西高校の生徒会を中心に、学校帰りに立ち寄って生徒の学習の相談や指導に力を貸してくれている。また、夏の地域ボランティアや募集したボランティアも指導に入試の終わる3月まで続けて指導や支援にあたっている。

■ 特徴的な活動内容

「寄り道ボランティア」と名付けて、近隣高校と連携を図り、生徒会の生徒を中心に、学校帰りの電車待ちの時間に、本校に立ち寄り図書室で生徒の学習の相談や指導に力を貸してくれている。

■ 実施に当たっての工夫

図書室を個別で学習できるブースや小グループでの学習、広いスペースでの学習ができるなど、学習の場を設定している。



【 個人ブースで個別学習 】

■ 事業の成果

地域のボランティアは、生徒と関わる中で、生徒の成長が楽しみになってき、機会があれば学習参観にも自主的に参加されている。家庭環境では家庭学習が難しい生徒については安心して学習ができる場となっている。

生徒が年齢の近い高校生に教わることは、当初恥ずかしさもあったが、互いにためらいをなくすことで素直に対応できるようになった。また、先輩の姿を間近に見ることで進路先へのあこがれや、進路選択の一つの指針になっている。一方、高校生は、教える側の難しさを実感しつつ自らの学習への向上心がさらに高まってきている。



【 小グループ学習で教え合い 】

■ 事業実施上の課題

放課後の時間を生み出すことが難しい。1、2年生にも学力補充を継続したいが、部活動や委員会活動との兼ね合いで実施が難しい。

■ その他

図書室での学習環境を整えたが、もっと違った形でオープンな学習場所の工夫をしたい。夏場は廊下に机を並べて、どこでもだれでもが簡単に学習ができるようなスペースを作りたいと考えている。

■ Let's Enjoy English (甲西北中学校)

■ 湖南市		コーディネーター数	2人
■ 活動名		子どもの平均参加人数	5人
	放課後子ども教室 [甲北中基礎学力補充教室]	開始年度	平成27年度
年間開催日数	25日		

■ 活動の概要

「英語に親しむ」というねらいで、月曜日の隔週で放課後に約1時間の時間を確保し、英語が苦手な生徒が気軽に英語に慣れ親しむところからスタートさせた。教材についても授業で使っている教科書から離れて、「学習」や「勉強」と言ったスタイルにこだわらない形で「英語に親しむ教室」を、基礎学力補充教室の一つとして展開している。

また、小学校高学年から外国語活動が導入され、中学校入学後の英語の授業内容との差を少しでも埋めることを目的に「学習」という形態に拘りすぎず、「親しむ」ことを大切にしながら取組を進めるよう心がけた。

■ 特徴的な活動内容

発展的な学習よりも英語の初歩的な内容を中心に学習を進めた。1年生の英語の授業では、ボランティアさんに入り込んでいただき、生徒との交流を深めることから始めていただいている。また、「英語で情報を集めよう・まとめよう・伝えよう」ということをテーマに、著名人を三人称で表現したものを教室前の掲示板に貼り出しを行った。

■ 実施に当たっての工夫

参加生徒が一人でも増えるように学級担任や部活動顧問からの呼びかけをこまめにすることを心がけた。併せて、生徒同士の勧誘も実施。また、目にしやすいところにポスターを掲示するなど、校内での生徒の通行が一番多い廊下に面している教室での実施を心がけた。本校には英語科の教員が各学年に3名おり、併せて隔週で来校するALTの協力も得て、事前の打ち合わせを通して、活動内容の検討協議をこまめに行うようにした。

■ 事業の成果

普段の授業と違い、少人数で学習するため、きめ細やかな指導を行ってもらった。友達を連れて教室に訪れる生徒が中にはおり、中学校の英語の入り口となる位置づけとしては定着しつつある。しかし、成果を求めるまでには至っていないところは多々あるが、息の長い継続的な取組をしていくことで、この取組の成果と言える活動となるよう努力し続けていきたい。

■ 事業実施上の課題

月曜日は部活動停止日に設定されていることもあり、放課後になると帰宅を急ぐ生徒が大半なため、それに連れられるかのように生徒の脚はそちらへ向いてしまう。このことが、この教室への参加率低下にも繋がっているように感じる。広く周知を図る目的で全校集会時に呼びかけることは勿論のこと、設定曜日の変更も視野に入れながら検討していきたい。

■ その他



【英語教室の様子と廊下への掲示作品】



■ 地域とつながり、将来に向けての学ぶ力を育てる（日枝中学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
日枝中放課後子ども教室〔夜の学習会〕	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	6人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

大学生や一般の方、高校生など地域の方に協力をしていただき、生徒一人一人に個別に関わっていただくことで個々の生徒の学力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

地域コーディネーターより、地域の方に幅広く声かけを行い、協力を依頼する。サポーターとして、平均4名の方が参加してくださっている。参加生徒は、学習に向かう意欲が低かったり、理解に時間がかかったりするなどの支援を必要としている。

そのため、一人一人の生徒に寄り添いながら丁寧に支援をすることで、学習への苦手意識の払拭や集中力を持続させることに力を注いでいただいた。10月から2月までの期間で15回実施。

■ 実施に当たっての工夫

会場については、校区内にある市民学習交流センター（サンヒルズ甲西）の部屋をお借りし、参加する生徒が集まりやすいように工夫した。また、生徒たちにとって年齢が近く親しみやすく、また近未来の将来像がイメージしやすくモデルとなる存在である高校生や大学生にサポーターとして来てもらうようにした。そして、サポーター自身の経験を踏まえたうえで接してもらい、参加生徒の学習への意欲と前向きな気持ちを持つことができるよう配慮した。さらに、これからの地域での若い世代のつながりをつくっていくことも視野に入れている。

■ 事業の成果

毎週水曜日の19時から21時の2時間を設定。決まった時間に決まった場所で行うことで、家庭での学習の習慣が身につくようになった生徒も、週1回の取組を継続していくことで家庭学習の習慣づくりにつながった。また、地域の方に力を借りることで、家庭の事情等により学習環境が整いにくい生徒も継続的に学習に取り組むことができるようになった。生徒が集まり一緒に学ぶことで、自宅で一人ではなかなか気持ちが向かない学習にも自ら取り組む態度が身についてきた。さらに、マンツーマンでの指導ができる体制にすることで、サポーターの方との信頼関係も生まれ、わからないことやできない問題を質問したり、説明してもらったりして、安心して学習に取り組むことができるようになっていく。

■ 事業実施上の課題

参加する中学生と、サポーターとの時間調整に難しい面がある。また、多くの地域の方の協力を得ていくためには、活動の魅力や成果をどのように伝えていくのが大切である。さらに、事業の趣旨や内容等を十分に周知しておく必要があるため、参加者の開拓をどのように行っていくのかも検討していく必要がある。



【 地域の方の支援の様子 】



【 学習会の個別対応の様子 】



【 先輩からのアドバイス 】

■ 米原市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

放課後や週末に学校施設やその他公共施設等を利用して、地域に応じた子どもたちの安全・安心な場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学びと遊びの体験、異年齢交流の機会を提供し、地域で子どもを守り育てる環境づくりを目指す。

■ 本年度の活動

- ・米原市子ども・子育て審議会において、放課後子ども教室事業の活動を報告し、今後の活動などについて、議論した。

実施回数 2回

委員：15人

(有識者、福祉・教育に関わる機関や団体の代表者、子どもの保護者、公募市民など)



【米原市子ども・子育て審議会】

■ 本年度の成果

- ・地域の方々にボランティアとしてご協力いただき、異世代間の交流を深めることができた。また、地域の特色を生かした幅広い体験活動や交流の場を子どもたちに提供することができ、活動を通して子どもたちの成長を支援することができた。

■ 今後の課題

- ・放課後児童クラブとの連携を図る。
- ・事務局と実施団体との情報交換の場を設け連携を密にしていく。

■ 下学年と上学年に分かれて、季節にあったいろんな活動を行います。親子での参加可！

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in 310
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	7人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

低学年、高学年別にジュニアの部とサマーの部、ウインターの部に分けて活動をしている。乗馬体験や農園体験、ミニしめ縄づくり、書初めは合同で行い、スポーツ的な活動については、運動能力が違うので分かれて行っている。

■ 特徴的な活動内容

ジュニアの部では、乗馬体験や農園体験の他にニュースポーツを行っている。サマーの部では、乗馬体験や農園体験の他にバドミントンやカヌー、卓球などのスポーツを行っている。ウインターの部では、ミニしめ縄づくりや書初めの他にスキー体験を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

年齢能力別に低学年（ジュニアの部）と高学年（サマーの部、ウインターの部）に分かれて活動している。また、希望される保護者にも子どもと一緒に体験をしていただきながら、安全監視係をしていただいている。

■ 事業の成果

乗馬や農園、ミニしめ縄など個人では体験できないような活動を企画して、子どもだけではなく大人も体験を通してふれあいだけでなく学習を深めている。参加者数は少ないが、子どもたちは一生懸命活動に打ち込んでおり、異学年間や他校児童とのつながりができあがりつつある。

■ 事業実施上の課題

地域内3小学校を通じて参加募集チラシを配布したが、申し込みが少なく苦慮している。

■ その他

農園体験では、さつま芋の苗植えから収穫までを親子で体験している。苗植えの前には苗床に黒マルチを敷き、苗は斜めに植えつけている。収穫は、ツルとマルチを手繰り、スコップで芋を傷つけないように掘り起こした。春には農園の近くにある苺の摘み残しを、秋にはイチジクや柿の収穫を楽しむことができた。



【秋の収穫に向けてさつま芋も苗を植え】



【スキー体験中】

■ 多様な体験、深める交流 いぶきっ子の心豊かな育成を目指して

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in ジョイ
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	34 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- 第1回 (5/25) 「ドッチビーや大縄跳びに挑戦しよう」
初めての挑戦にワクワクで大縄はコツを覚えて段々と跳べるようになった。
- 第2回 (6/22) 「科学の不思議！手作りモーターに挑戦」
エナメル線をやすりで磨き電池ボックスの導線に繋ぎ、モーターの作用でエナメル線を回転させた。
- 第3回 (7/13) 「頭の良くなる！？「囲碁」基本を習おう！」
<いごってなあに>のビデオを鑑賞してから囲碁の基本ルールを覚えてもらう。
- 第4回 (9/25) 「大学のキャンパスに遺跡発見！鉄道の歴史と今を知ろう！」
立命館大学内にある木瓜原遺跡見学と京都鉄道博物館へ借り上げバスで出かけた。(日曜日実施)
- 第5回 (10/19) 「あんこたっぷり おはぎをつくろう！」
昔懐かし おばあちゃんの味 秋の彼岸にちなみおはぎ作り
- 第6回 (11/9) 「白谷先生といっしょに少年少女合唱団！」(地域人材の活用)
- 第7回 (1/15) 「かるた・百人一首&餅つき大会」(青少年育成市民会議伊吹支部・伊吹山麓スポーツ文化振興事業団との共催)
- 第8回 (2/22) 「写真家 須藤先生のお話を聞いてイヌワシの生態を知ろう！」(地域人材の活用)

■ 特徴的な活動内容

白谷先生といっしょに少年少女合唱団！

地域人材の活用として、全国的に幅広く活躍されておられる米原市在住の声楽家、白谷先生を講師に迎え、童謡や唱歌をみんなで歌いました。童謡の「ロンドン橋+メリーさんの羊」では2組に分かれてロンドン橋を歌う組とメリーさんの羊を歌う組とで相手の組の歌につられないように同時唱をしました。途中でつられてしまったりもしました。

「紅葉」「里の秋」「たきび」の3曲では秋を代表する名曲で、曲の背景や歌詞の意味を教えていただきながら歌いました。姿勢を正して、大きな口を開け(お腹から声を出す)言葉を大事にして、遠くまで声が届くように歌うことを教えて下さいました。そうすることにより自然と声が大きくなっていきました。

最後には、本格的にジョイホールの舞台の上で照明を当てていただき、先生のピアノ伴奏で紅葉とたきびを少年少女合唱団のように透過するような声で歌いすることができました。



【童謡唱歌を歌う】

■ 実施に当たっての工夫

- ①内容はスポーツ、科学、芸術等幅広く体験できるように計画し、その都度たよりを出して活動の様子を保護者に知らせる
- ②グループ分けをして(異学年混合、2小学校合同)高学年児童にはリーダー意識がもてるようにし、他校児童との交流が図れるようにした。
- ③安全確保
 - ・サポーターを各グループに配置し、児童の出欠、健康状態をチェックシートに記入してもらう。
 - ・必ず保護者による送迎とする。
 - ・放課後児童クラブ参加児童は、必ずクラブ指導員の引率による。
- ④緊急対応
 - ・センター外での活動には、必ず救急車を遂行する。
 - ・緊急連絡先を児童名札裏面に記載し、緊急連絡に備える。

■ 事業の成果

スポーツ、科学、歴史文化、芸術、調理など様々な活動を体験することができ、高学年児童はリーダーとしての自覚が芽生え、学校間の交流も図れた。

■ 事業実施上の課題

児童の対象学年が1年～6年と幅がある上、参加学年が年々低学年の傾向にあり、内容の難易度設定に工夫が必要である。活動内容による児童負担金増の懸念がある。教育活動サポーターの人材不足。



【おはぎ作り】

■ 地域の子どもは地域で育てる！

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in おうみ
年間開催日数	6日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	40人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

学校の休日を利用して、子どもたちにとって安全安心で、新たな興味関心を育む体験活動を地域で活動されている任意団体「どろんこの会」との協働により実施。この事業を通じて、地域ボランティアの特技や技術、生活の知恵を活かしていただきながら、地域の子どもたちの健やかな成長を見守り、青少年の健全育成を図る。

■ 特徴的な活動内容

農業・ものづくり・自然体験を主とした普段の学校生活や家庭では体験できない様々な活動のなかで、異なる学校の児童との友達づくりや地域ボランティアの方や保護者とのコミュニケーションづくりの場として成り立つことに重点を置いた多様な活動プログラムを展開。

■ 実施に当たっての工夫

活動を通じて自主性、社会性及び創造性の向上となるよう、参加児童自ら考えて主体的に行動できるような活動プログラムが図れるよう趣向を凝らしている。

■ 事業の成果

単年度で終わらず、継続的な活動により地域に浸透し、近年は事業の募集にあたり、定員を超える応募をいただいております。地域の子供たちのみならず保護者の方々にも好評を頂いている。学年や世代を超えた交流を図るなかで、集団意識を育みながら子どもたちがのびのびと体験している。

■ 事業実施上の課題

今後も継続して活動を実施するうえで、当団体の活動に自主的に関わって頂けるより多くの地域ボランティアとつながりを生み、地域住民の方を巻き込みながら活動していくことでさらなる団体の飛躍に繋げる必要性を感じている。

■ その他



【 どろんこ農園にて田植え体験 】



【ソーセージづくり】

■ 体験しながら交流し、安心してゆったりとして、思う存分遊べる居場所

■ 米原市	
■ 活動名	放課後キッズ in まいはら
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	2 人
子どもの平均参加人数	26 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

「放課後安心プラン」の一環として「放課後キッズ in まいはら」に取り組んでおり、放課後や休日に公共施設等を利用し様々な体験や交流活動を図っている。

■ 特徴的な活動内容

主に息郷体育館、すぱーく米原を利用し活動している。

- ・ 息郷体育館・・・バドミントン、卓球、ビーチボールバレー、ユニホック、スーパーホッケー、リズム体操
- ・ すぱーく米原・・・ミニテニス、ホッケー
- ・ 磯漁港付近・・・カヌー・カヤック

指導には米原市ホッケー協会、スポーツアドバイザー、米原地域の方、すぱーく米原職員、MOSスポーツクラブ会員の方などにご協力頂いている。

■ 実施に当たっての工夫

運営団体が総合型地域スポーツクラブなので、様々な種目のスポーツを体験してもらえる内容にした。

米原市ホッケー協会の協力でホッケーとユニホックを体験し、普段なじみの無いスポーツを経験する機会を設けた。

遠足場所は東山動植物園（愛知県名古屋市）で午前中は子供だけで班ごとに園内を自由に散策しました。午後からは全員で動物の生態や飼育員の仕事について職員の方からお話を伺った。

■ 事業の成果

学校や学年が異なっている参加者が、お互いに協力し楽しく参加してもらえたように思う。

ユニホック・スーパーホッケーでは、自主的に作戦会議をして役割分担を決め試合に挑む姿も確認できた。

活動の中で協力しあうことを楽しみながら学んでくれたと思う。

■ 事業実施上の課題

全学年が飽きずに楽しむスポーツを増やし、体験時間の最後まで集中できるようにしたい。

確保できる会場の都合により屋内スポーツに偏っているため、屋外の体験活動ができる会場を確保したい。

スポーツの他にも工作体験や地域の文化や歴史を知ってもらえる活動を増やしたいと思った。

■ その他



【息郷体育館でバトンリレー】



【すぱーく米原でホッケー体験】

放課後児童クラブの現状

平成28年5月1日現在

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	223 か所	児童数	81,631 人
小学校1～3年生の総数	40,857 人	*4～6年	40,774 人

(2) 放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
	96	146	46	288

(3) 放課後児童クラブの状況

調査項目	公立公営	公立民営	民立民営	合 計
実 施 場 所 別				
放 課 後 児 童				
ク ラ ブ 数				
児童館・児童センター	1	2	5	8
学校の余裕教室	49	17	1	67
学校敷地内専用施設	26	58	0	84
公有地専用施設	16	51	0	67
民有地専用施設	0	2	15	17
民家・アパート	0	2	3	5
公的施設利用	1	11	7	19
団地集会室	0	0	0	0
保育所	0	0	6	6
幼稚園	0	2	0	2
認定こども園	0	0	0	0
空き店舗	0	0	8	8
その他	3	1	1	5
合計	96	146	46	288
登 録 児 童 数 別				
放 課 後 児 童				
ク ラ ブ 数				
9人以下	0	2	6	8
10人～19人	4	10	4	18
20人～35人	39	42	15	96
36人～70人	26	62	18	106
71人以上	27	30	3	60
合計	96	146	46	288
障 害 児 受 入 数 別				
放 課 後 児 童				
ク ラ ブ 数				
受入なし	11	21	19	51
1人	10	35	17	62
2人	17	25	8	50
3人	23	22	1	46
4人以上	35	43	1	79
合計	96	146	46	288
平 日 の 終 了 時 刻 別				
放 課 後 児 童				
放 課 後 児 童				
ク ラ ブ 数				
17:01～17:30	0	2	0	2
17:31～18:00	15	0	4	19
18:01～18:30	41	56	3	100
18:31～19:00	40	86	26	152
19:01～20:00	0	2	9	11
20:01～21:00	0	0	3	3
21:01～22:00	0	0	1	1
合計	96	146	46	288
休 日 の 開 館 状 況 別				
放 課 後 児 童				
ク ラ ブ 数				
土曜日（毎週実施以外）	96 (18)	132 (81)	44 (3)	272 (102)
日曜・祝日	0	6	10	16
長期休暇	96	146	46	288
学 年 別 児 童 数				
小学校1年生（障害児）	1,615 (109)	2,044 (78)	578 (6)	4,237 (193)
小学校2年生（障害児）	1,442 (77)	1,940 (94)	458 (10)	3,840 (181)
小学校3年生（障害児）	1,183 (47)	1,481 (86)	351 (8)	3,015 (141)
小学校4年生（障害児）	727 (45)	1,003 (71)	247 (5)	1,977 (121)
小学校5年生（障害児）	319 (13)	579 (46)	123 (6)	1,021 (65)
小学校6年生（障害児）	179 (19)	287 (24)	68 (5)	534 (48)
その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計（障害児）	5,465 (310)	7,334 (399)	1,825 (40)	14,624 (749)
学 年 別 利 用 （ 登 録 ）				
で き な か っ た 児 童 数				
小学校1年生（障害児）				17 (3)
小学校2年生（障害児）				7 (0)
小学校3年生（障害児）				5 (2)
小学校4年生（障害児）				20 (0)
小学校5年生（障害児）				12 (0)
小学校6年生（障害児）				2 (0)
その他（障害児）				0 (0)
合計（障害児）				63 (5)

注：（ ）内の数は、再掲である。

(4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合 計 B
		市（特別区）	町	村	
19	100 %	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移

